

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

令和6年3月21日

総合交通対策調査特別委員会

速 報 版

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

午前9時59分開会

○しづや竜一委員長 それでは、皆様おそろいですので、ただいまより総合交通対策調査特別委員会を開会いたします。

————— ◇ —————

○しづや竜一委員長 まず初めに、記録署名員を指名させていただきます。

白石委員、市川委員、よろしくお願いいたします。

委員の皆様申し上げます。

今般、川村副委員長から副委員長の辞任願が提出されておりますので、この際、副委員長辞任の件を議題といたします。

本件につきましては、地方自治法第117条の除斥の規定により、川村副委員長の退室を求めます。

〔川村副委員長退室〕

○しづや竜一委員長 お諮りいたします。

川村委員の副委員長辞任を許可することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○しづや竜一委員長 御異議ないと認め、さよう決定いたしました。

川村委員の除斥を解きますので、入室を求めます。

〔川村委員入室〕

○しづや竜一委員長 ただいま副委員長が欠員となりましたので、副委員長の互選を行います。

この際、副委員長互選の件を議題といたします。

副委員長の選任方法についてお諮りいたします。いかが取り計らいますか。

〔「委員長一任」と呼ぶ者あり〕

○しづや竜一委員長 委員長一任との声がありますので、選任方法は指名推薦によることとし、私から御指名申し上げます。

副委員長に、土屋委員を選任することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○しづや竜一委員長 御異議ないと認め、さよう決定いたしました。

それでは、土屋副委員長より就任の挨拶がございます。よろしくお願いします。

○土屋のりこ副委員長 この交通委員会、バスの減便など本当に課題山積で重責を担っていると思います。委員長を先頭に、皆さんとともに力を合わせて頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○しづや竜一委員長 ありがとうございます。

————— ◇ —————

○しづや竜一委員長 それでは、陳情の審査に入ります。

(1) 5受理番号22 公共バス「ブンブン号」の本格運行を求める陳情、(2) 5受理番号38 小さな交通「グリーンスローモビリティ」の早期実現を求める陳情、以上2件を一括議題といたします。前回はいずれも継続審査であります。執行機関、何か変化ございますか。

○都市建設部長 2件の陳情・請願のうち、まず初めのブンブン号の本格運行を求める陳情につきましては、さきの11月16日本委員会で御説明申し上げたとおり、収支率24%に対して実際には19.1%ということですので、明日3月22日をもってブンブン号の運行は終了とさせていただきます。

続いて、もう一つのグリーンスローモビリティに関する陳情でございますが、こちらにつきましても、さきの12月13日の委員会で御報告申し上げたことと併せて、本会議でも様々な御質問をいただいております。それを踏まえまして、地域内交通導入サポート制度の内容について、本来で

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

あれば、今回、費用負担のことも含めた、公費の負担も含めたことで御報告申し上げるところでありましたが、内容を精査している関係で、次回の委員会で改めて御報告申し上げる予定でございます。

○しづや竜一委員長 それでは、質疑に入ります。

何か質疑ございますか。

○白石正輝委員 この請願に直接関係あるのかどうかということになると非常に難しい問題ですが、議長にお伺いいたしますけれども、議会申合せで、信号設置の請願・陳情、また位置を特定した用地買収に対する請願・陳情は議会では受けないという申合せになっていますが、なぜそうなったか御存じですか。

○工藤てつや議長 その件については結構遡るお話だと思うので、私自身は把握しておりません。申し訳ございません。

○白石正輝委員 同じ質問で、事務局の方よろしくをお願いします。

○区議会事務局次長 なぜというのは、私どもも詳しく把握はしてございません。いずれも昭和59年のときに議会で御議論いただいて決まったということしか分かりません。申し訳ございません。

○白石正輝委員 その当時議員していた方、何人もいないわけですが、当時、信号機の設置の請願・陳情が結構出たのですね。それから、用地ここ買ってくれという用地を特定した請願・陳情も出たわけです。そうした中で、足立区全体の計画を考えないで用地買収したり、信号機を設置したりということについてはなかなか難しいだろうということで、議会としては請願・陳情は受けませんよ。議員側からすると、請願・陳情を持って来られれば、こんなの要らないよと言って断るのはなかなか難しいわけです。

例えば我が党の議員が紹介議員になった請願を自民党として不採択にできるかということになると、基本的にはできません。我が党の議員が請願

の紹介議員になっている場合には、なかなか不採択にはできない。全体的な計画からもし漏れても採択せざるを得ないというようなことがあって、それでやめようということになったわけですが、でも、執行機関側としては、個々の請願を受けて採択しても困りませんか。

○都市建設部長 正直なところ、個々の案件について仮に採択されたとして、その状況下によってはかなり難しい状況になろうかと思います。

○白石正輝委員 基本的には委員会で採択されるということにとになれば、実現のために執行機関側は努力しなくちゃいけないわけです。努力義務があるわけですよ。そう思いませんか、副区長。

○副区長 議会の議決は非常に重いものだと思われまいますので、当然それに対しては責任を持った対応をすることになると思いますが、ただ、公共性というのを私ども考えないといけませんので、そういう観点から判断をさせていただきたいと思っています。

○白石正輝委員 結局こうした請願・陳情を議会では受けないということになったのは、総合的な判断をしないとなかなか難しいという中で、議会としてもそういう判断をしたわけです。

この請願・陳情、両方ともそうだとは言いませんけれども、受理番号22について言えば、ここに交通網を走らせてくれという請願ですね。前の委員会でも言いましたが、これと同じようなことが関原の不動商店街で朝市のときによくやっていたのです。

何党が言う気はありませんけれども、この商店街、はるかぜが走ったらいいですね、請願に署名してくださいと言えば、言われた側にしてみると、あった方が便利だ、それは分かり切ったことです。あった方が便利だということで署名をする。ところが、署名しているだけなのです。請願も陳情も何も出てこない。

なぜ出てこないかということ、関原の不動通りの

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

すぐ西側にある100号線を東武バスが走っているのです、定期バスが。そして不動商店街にはるかぜを走らせるという、はるかぜに乗るのか、100号線の方の東武バスに乗るのかということを見ると、どうも難しいかなと思うので請願・陳情は出てこない。そうすると署名運動をするのですね。

あれ何のために署名運動しているのか分かりませんが、やはり位置を特定したバス交通網の整備とかこうしたものについては、さっき言った信号だとか用地買収の件と同じように、足立区全体の計画を考えながら実現していかなければいけないものですから、こうした位置を特定した請願・陳情をもし採択されたら、交通の担当課長、採択されたら実現できますか。

○交通対策課長 やはり路線を指定ということになりますと、その周りに既存の路線があったりですとか、バランスがあったりということもございます。そうしたことは、実際に進めようとしても、その認可の申請などの中でやはり難しいことになってしまうかなというふうに思います。

です、白石委員おっしゃるとおり、全体を見ていかないといけないというのは非常に重要だと考えております。

○白石正輝委員 あまり長くしゃべる気はありませんけれども、採択されたのに執行機関側が実行しないということになると、一体議会の採択というのは何だったのだと。議会の採択はリップサービスですかということになりかねない。そういう意味でいえば、議員側としては、採択、不採択はよほど考えて決定しないといけないわけです。議会が決定したのに執行機関側が実行しない、こんなことは許されない。

ただ、今言うように交通機関などは全体的な判断が必要ですから、議会が言ったからといって、執行機関側がすぐそれを実現できるかということになるとなかなか難しい。

副区長、今の交通課長は多分課長になっていない時点だと思いますけれども、足立区全体に議会も入っていた交通問題の審議会みたいなのがあったのですが、御存じですか。

○副区長 すみません、ちょっと存じ上げていないです。

○白石正輝委員 私も、その委員に1回なったことがあるのです。足立区全体の交通網をどうするかということをしてそこで話し合うわけです。ここで、交通問題の特別委員会で話し合うのではなくて、そこで話し合う。それは私らも委員になって議員として入ってはいますけれども、全体をどうするかを考えながら、ここに新しく走らせたほうがいいんじゃないのかというような話が決まるわけです。それは執行機関の皆さんも入っているし、またバス会社等の事業者も入っていますから、そこで決まったことについてはほぼ実現していくというような形が当時取られていたのです。

今はないみたいですが、今は交通の課長のところで全部決めるのですか。

○交通対策課長 白石委員おっしゃっていたのは、過去に多分懇話会みたいな形であったのかなと思うのですが、今現在は、地域公共交通会議という会議体がございます。そこは自治体も入っておりますし、事業者ですとか国交省が入っているところで、全体の交通の問題について協議する場がございます。

それから、これから私どもが新たに来年度新しい公共交通計画というのをつくりますけれども、それは新しい法律に基づいた協議会みたいな形で設置させていただくものも新たにできてきます。それが白石委員おっしゃっていただいたような地域の声だったり事業者の声を確認しながら、必要な路線や再編ということを協議する場になってくるかと考えております。

○白石正輝委員 最後にしますけれども、この問題については、議長、私も我が党の執行部に申し入

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

れておきますけれども、各党でよく話し合っ、ここを通してくれといったときに、その地域にいる議員としては反対できない。賛成せざるを得ない。その議員が賛成すると、党全体で反対することがなかなか難しい。賛成せざるを得ない。そうになったら、あちこちめちやくちやに請願が出てきて、その請願が本当に全体的なものでなくて一か所一か所でできてしまうと、本当に採択することが正しいことなのか。

できもしないのに採択することは、やはり議会としては非常に問題があると思いますので、このことについては、各党の幹事長会で申合せ事項は決まるのだと思いますけれども、幹事長会でもんでいただいて、我が党の執行部には言っておきますけれども、ここにおいでになる皆さん方は、各党に持って帰っていただいて、是非各党の執行部の皆さん方にこのことについて議論をして、どっちに決めるか分かりませんよ。議論をしてほしいというふうに思います。

○工藤つや議長 ありがとうございます。陳情・請願の在り方については、再度各派幹事長会の方で検討してまいりたいと思います。よろしくお願いします。

○しぶや竜一委員長 他に。

○山中ちえ子委員 今の白石委員の議論ですけれども、1点目は、陳情は住民の切実な願いなわけで、議会で一生懸命議論して、議員が発言したり、採択の態度を取ったりというのは本当に心を込めた判断であって、その判断に基づいて、行政や地域の方とどうやってできるのかというふうに前向きに議論していくことにつながりますし、そういったことをおっしゃるのは、今回の受理番号22の陳情についてとは全く違う話だと言わなきゃいけないと思います。

そして、この第1回定例議会、予算議会でも、様々にこの問題も指摘されたと思いますけれども、我が党の代表質問でも質問したように、全区的な

大変さに関わって幾つか質問していて、持続可能に既存バス事業者を存続させるといった点では、6路線を維持させていくということで協働事業に踏み出したということが言われていました。

もう一つは、廃止路線になったりしたところ、ブンブン号も含めてですけれども、その後はどうしていくのかといったところでは、様々にお答えしていたと思いますけれども、結局地域内交通サポート制度にさせていくということでよろしいのですか。

○交通対策課長 基本はやはり地域内の交通を導入するということのサポート制度、今、最後詰めていますけれども、その形で区と地域とで一緒にやっていくというようなスタンスでやりたいと考えております。

○山中ちえ子委員 そうなると、かなりスパンは長く議論しなくてはいけないということがあると思います。大切なことを決めていくといったことで、令和7年の地域公共交通総合計画も策定していくという時期でもありますし、そこに一緒に考えていくということになってしまうと、今の廃止路線が幾つもあって、このブンブン号も終了だということで、代替案を早急に考えていかななくてはならないといったところは別に考えていかななくてはならないと。地域の自治会長たちも、検討委員会を対面で行わないで書面開催で終わらせた、紙切れ一枚で終わらせてしまうのかということで、かなり憤慨されていました。

そういったところでは、そういった思いをどう受け止めたのか、その辺を教えてください。

○交通対策課長 来年度の地域公共交通計画の方は策定していきますけれども、サポート制度はそれよりも先に、4月にそうやって委員会の方に御報告させていただいた後は、うちの方で制定させていただいてスタートする形に考えております。

ですので、花畑の地域の方々にはまたお話も伺いながら、やり取りはさせていただいております

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ので、これはしっかり継続して進めていきたいと考えております。

○山中ちえ子委員 この2つ目の陳情のグリーンスローモビリティのことも関わってですけれども、地域内交通サポート制度の中でも、定時定点、時刻表があってバス停があってといったところではどうするのかとか、あとはグリーンスローモビリティではいろいろなやり方で各自治体はやっている。松戸型で言えばボランティアでやるということだったり、杉並区だったりほかの全国いろいろなところは、交通事業者に任せてやっているというところもあるし、どうしていくのかというのは早めに、あしたで終わってしまうので、検討を進めていってほしいと思います。

せっかくこの地域から陳情が出ているわけですね、グリーンスローモビリティも。ほかの杉並区なんかの例を見てどう考えていこうとしているのか。この地域で、グリーンスローモビリティとは言わなくても、乗合タクシーみたいなやり方で、ラッピングをきれいに子どもたちや地域の人たちが和んで関わられるような形態で、グリスロとは言わなくても、乗合タクシーということで事前予約だったり、事前予約でなくて定点があったりいろいろなやり方をしていますけれども、地域の方とブンブン号が終わりになった後の交通についての話し合いは早く設定していくということをお願いしたいのですが、どうですか。

○交通対策課長 何度かお話をさせていただいております。私どもいろいろ考えてはきたのですけれども、地域の方とより具体的なお話がしたいなと思っております。

ですので、我々の方から出向いて意見を伺って回るというようなことも考えていきたいと思っておりますので、そうした形で進めさせていただきたいと思います。

○山中ちえ子委員 せっかく検討委員会で、競合という問題も乗り越えてできたわけです。要するに

既存バス事業者さんの利益が傷つかないような路線でと言って、ずっと求められていた舎人公園通りというユーカー公園と通称言われているところの路線などの希望が多かったけれど、そこは一部かなったわけですが、そういった既存バス事業者との競合問題も乗り越えて、検討委員会でもかなりの議論をやって、慕われてきた路線なわけです。

ですから、ここはしっかりと、どういうふうにするのか。路線をちゃんと継続していくのか、それとも事前予約制にしていくのか。そうではなくてこうしてほしいというような声はかなり町会・自治会長さんからも出ていると聞いています。なので、具体的に関わってほしいです。

○交通対策課長 繰り返しになりますが、地域の皆さんとお話をさせていただきながら進めさせていただきたいと考えております。

バスという形にはならないので、小さな交通で考えていきたいと考えております。

○しづや竜一委員長 次。

○市川おさと委員 このブンブン号の話ですが、あしたで廃止するということでよろしいのですね。

○交通対策課長 市川委員おっしゃるとおりでございます。

○市川おさと委員 今、山中委員の話聞いていても、ブンブン号廃止の後の話をなさっていて、この陳情自体はブンブン号を廃止しないでくださいという話なわけでありまして、ブンブン号を残せという話はこの特別委員会の中でも全くなっていると思うのですが、その後のことというのはどうなのですか、改めて。

○交通対策課長 社会実験としてやらせていただいたところでの数値として、目標に満たなかったということで終了という話でございます。

ですので、一方でそうした御意見も頂いているところで、何とか地域内の需要に合った形での交

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

通を考えていきたいと、今、進めているところでございます。

○市川おさと委員 そうしますと、意見を言う場ではなくて質疑の場なのでこれ以上言いませんけれども、この受理番号22の方は、公共バス「ブンブン号」の本格運行を求める陳情といった内容、それしか求めているわけでありますので、これ以上ここで議論してもしょうがないのかなと思うところであります。

○加地まさなお委員 皆さんの御意見ごもっともだと思って聞いていたのですが、実際ブンブン号はなくなってしまうので、前回も言わせていただいているのですけれども、区の方で、今、地域の皆さんと話し合われていると思いますけれども、どういう方向で、この事業サポートは御説明されていると思いますけれども、やはり決まるまで時間がどうしても空いてしまうというのは委員会でも皆さん言っていることだと思いますが、現状どのように最短でとか考えているのか。なぜかという、皆さん困っているから陳情が出ていると思うのです。

予算特別委員会でも正に太田委員がおっしゃっていたように、ある程度方向性は事業サポートで説明されている。この中で本来この方向でというのを少しでも導いて、選択肢を何個かに絞って訴えていくということが大切だと、私、本当そのとおりだなと思っているのですが、そういう方向で行くのと同時に、時限的にでもいいので、例えばあらましにも、今回、福祉タクシーの予算が増えていますね、障がい者の方の。それと同時にガソリン代というのも予算が増えています。

時限的でもいいので、その間にそういった予算を、申請制でもいいですが、今回陳情出ている区域、交通不便地域で使えるようにするということはできないですかね。前回も聞かせていただいたと思いますが。

○障がい福祉課長 障がい者向けの福祉タクシー券

や自動車燃料助成事業ですと、そもそも障がい者の中でも対象者の範囲が決まっております、それをある一定の地域の方に範囲を広げるということになると、障がい者向けの福祉タクシー券の制度の中でその対象者を広げるというのは非常に難しいのかなと、今のところ考えております。

○加地まさなお委員 難しいのは承知の上で話しているのですが、今回の場合だと、障がい者福祉手当の対象が20歳未満を追加、これ申請制度になっている。予算もかなり追加している。私はこれ必要だと思っているのでいいのですけれど、ここに、何回も言いますが、次の新たな交通手段が決まるまでというのを示さないと、行政側の熱意が伝わらないのではないかなと思うのです。

収支があってブンブン号なくなるのはしようがないとは思っていますけれども、次に決まるまでということとはできないのですか。予算をここに積み立てるといことはそんなに難しい話ではないと思っているのです。

なぜかという、今回の場合は区の失態もかなり大きいと思っているのです。実証実験をする、実証実験が終わった後どうするのかということが決まっていない。これは区の失態とまでは言わないのですけれども、住民の皆さんの気持ちを考えると、これが誠意になるのではないかなと思うのですが、どうですか。ここを変えていかないと、次に進まないのではないかなと思うのですが。

○副区長 まず、福祉タクシー券の拡大については、区の政策の大きい判断になりますので、これは少し時間が掛かるかなと思います。今のところは難しいかなと思います。

ただ、この地域にブンブン号を走らせて、廃止して全くなくなる、その期間が空くということについては、私ども多くの委員からおっしゃられるとおり、次にどうするのかというのを考えてやっいていかないというのは、本当にそこは反省しております。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

今、加地委員から、つないで何かのことをできないかということですが、結局つなぎでやっても、それを廃止するときはどうするのかという議論がやはり出てくると思うのです。

私どもは、まず、地域の皆さんが何を望んでいて、どういう交通が必要なのか。例えば無料が求められているのか、有料でもいいですよというのか、どこまで行くのか、そこの辺のきちんとしたデータの把握がないと、次に進むのは難しいと思います。

そういった意味で、入谷・鹿浜も今やっていますが、今回組み立てますけれども、次に何するかということを改善しながらやっていく必要がありますので、本当に申し訳ないですが、時間はどうしても掛かってしまうかなと思っています。

○加地まさなお委員 分かりました。ありがとうございます。ただ、これだけのスキームがあるので、そんなに難しいことではないのではないかと思うのです。時限的と私言わせていただいているので、次の新たな交通手段が決まるまでというふうにすれば、そんなに難しいことではないのではないかと思っていますが、例えばそれを検討しているか、していないかでも、住民の皆様もなるほど考えてくれているのだなというふうにとってもらえると思うのです。

先ほども言いましたけれども、太田委員がおっしゃったように、熱意、お願いするということ、やはりストーリーに関係するので、皆さんも分かっていると思うのですが、それが伝われば少しは考え方も変わってきて、もう一個の陳情のグリスロの方も話が進めやすいのではないかなと。

今回のグリスロも、松戸市の例を出すと、共助の部分でお願いするドライバーもボランティアの方でやっていただくという形になると思うので、その話に進めるためにも、そういった姿勢を見せるということが実は大事なのではないかと。それを検討して話し合っているか話し合っていない

かが実は大事で、地域の皆さんと話し合いをしている中でも、区としてはこういうふうに話し合っていますと、できる限りのことはしたいと思っています。でも、できない現状がありますと。やはりドライバーの問題、2024年の問題もあるので、そのときにどうしても力を貸していただきたい。

これから高齢者社会になって、足立区だけではなく日本全国の問題ですが、足立区としては不便地域の解消を行いたい、そのためにはという話の流れがないと、そしてどれだけ取り組んでいるかという姿勢を見せない。

と思うのですが、再度、できるかできないかは置いておいて、検討していただくということではないでしょうか。

○副区長 もちろん検討しておりますし、確かに情報がないというのは地元の方一番不安ですので、積極的に地元の方には協議会なりを開いて、意見交換していきたいと思います。

○加地まさなお委員 最後にします。

グリスロの陳情の方に行きますけれど、区の方は、例えばこのグリスロを行う、地域の方に手伝ってもらい、手伝ってもらわない、区が主体になってやるといったときの計算、算出といいますか、どれぐらいの予算が掛かるのかということは、既に行っているのかどうかお伺いします。

○交通対策課長 グリーンスローモビリティで無料でいったときに、例えば松戸市さんみたいな形で、ボランティアで運行していただくというと、一般的には車両代と運行に掛かる電気代、その辺だけですので、そんなに大きい額ではないというのも分かっております。

○加地まさなお委員 それと同等に、ちょっと話がそれてしまうかもしれない、事業サポートの中で、バスをワゴン車というのも、黒い線に入っている、多分これは検討する中に入っている、足立区が入っていると思うので、この金額等も出して、また住民の方に示すと、やはり見える化するほう

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

が、皆さんもそろそろ絞っていくタイミングだと思っているのです。

ここで選択肢が大幅にいっぱいあると駄目なので、区の方でもこれで大体いきますよというふうにしていったほうが、住民の皆さんもその中でどうできるか、何を優先順位にするのか、時間を最優先にするのか、すぐにつくってほしいのか、それともみんなが納得するのを最優先するのかという話し合いにできると思うので、その辺を絞っていくのはいつぐらいになりますか。

○交通対策課長 先ほど部長の方からも、最初にサポート制度のお話の中で、ある程度金額的なものもお示しするという話をさせていただいたところで、そこを最後詰めているところでもございます。

その中には、今、加地委員おっしゃっていたようなグリスロだったらどのぐらいの費用になる、あるいはワンボックスを委託で運行してもらったらどのぐらいの費用が掛かってくるので、実験を一回やってみようといったときの費用感が大体出てくると考えているところでございます。それは4月の段階では、少しお示しさせていただければと思います。

○加地まさなお委員 これなるべく早く形を示して、住民の皆さんにもこういうふうに区は考えていますということを丁寧に説明していただいて、より早くこの問題を解決していただきたいと思います。

○しぶや竜一委員長 他にありますか。

○太田せいいち委員 陳情2つ出ていますが、まず、ブンブン号の廃止については、先ほど区の方からも御説明がありました。また、予算特別委員会でも、本会議でも様々答弁いただいている中で、大きな方向性としては、地域内交通導入サポート制度の中で少しでも早く解決していきたいというのが区の方針だと考えております。

そういうことであれば、交通空白期間というか、ない期間住民の方が苦勞されるのは間違いないので、そうなったときに、我々もいち早く住民の方

の御要望に沿った形で、この制度に従って区民の方の足を支えることができるようにサポートしていきたいと考えていますので、こちらの方の制度の取りまとめ、一日も早くお願いできればと思います。この点については、意見表明という形で表明させていただいておきたいと思います。

グリーンスローモビリティについて、改めて何度も議論されているのですが、確認で、陳情の中でもありましたが、やはり福祉的視点での重要性、指摘していただいているかと思います。

改めてこの委員会場で、その福祉的観点といえますか、高齢にとって移動手段を確保できるということが一定のフレイル予防という意味でも効果があると思いますが、その辺の区の考え方、基本的な大きなところで結構ですが、まず確認をさせていただければと思います。

○都市建設部長 改めて地域公共交通計画、大竹委員からも御質問いただいた中で、若年者の視点も当然ですが、高齢者の視点も必要だと思っております。

ですので、今までの状態とかなり世の中が変わっておりますので、交通施策という面と福祉的な施策、高齢者施策も含めて、大きな議論をしていく必要性がありますし、それを具現化していく中で、どういった公共交通がよいのかということを皆さんと一緒に議論していく必要があると思っております。

○太田せいいち委員 その福祉的効果が一定程度あるのは間違いないと思いますので、その効果が見込まれる以上、その効果に対する区の費用の負担の仕方の考え方、いわゆる高齢者の足を支えるという意味では、よりその部分は手厚く区が支援するという考え方が今後示されるべきだと思いますので、この点は要望させていただきます。

また、グリーンスローモビリティについても、様々な説明の中では、地域内交通導入サポート制度の中での検討という方向性の説明がされてお

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ますが、もう一度これ確認で、この新しい地域内交通導入サポート制度の重要な選択肢の一つとしてグリーンスローモビリティを考えているということでもよろしかったでしょうか。

○都市建設部長 太田委員おっしゃるとおりでございます。いずれにしても、地域内でどのような交通体制が必要だという議論の一つの中にグリーンスローモビリティがあります。それ以外のいい方法があれば、そちらを選択するということも当然のことながらあると思います。

○太田せいichi委員 その方向性を確認させていただいた上で、陳情に沿った形で言うと、早急にということも望まれていますので、ここは我々も協力して一緒に早急に立ち上げできるように、案が出てきた際にはしっかりと検討させていただきたいと思いますので、引き続き準備の方よろしくお願ひいたします。

○しぶや竜一委員長 他に。

○鹿浜昭委員 私も、ブンブン号の件でお尋ねさせていただきます。

令和元年11月からずっとこのブンブン号に対しては検討されて、総合交通計画改定されて、アンケートを取りながら足立区でも花畑地区ということで決定されたということで、地域の人も大変喜んでいただかと思っています。

今まで1期、2期の平均収支率も、1期目は11.1%、3期目15.6%、最終4期目は19.1%まで、地域も大変危機感を持ちながら皆さんで利用しようということでされていたのではないかなと、この数字が物語っているのかなと思います。

本当に私ども大変残念ではあります。ただ、やはりこの検証結果が24%いかなかったということで、あしたいよいよ終わってしまうというのは大変残念なことではございますが、区としては、今、どんなお気持ちなのでしょう。

○交通対策課長 私、最初からやらせていただいて

おりますけれども、最初2年ということで、実際2年半ということだったのですが、あっという間の時間でした。

というのは、委員の皆様からいろいろな御要望、御議論をいただいたところでもございますが、なかなかそれを現場の方に反映できないといいますか、時間的にこんなに時間ってないのかなというぐらいに思うところでもありました。

一方で、社会実験とはいえ、地域の皆様には御利用いただいて親しんでいただいていたところはあるかと思っています。そうした点については、これは本当に経験ではあるので、次へ生かさなきゃいけないのですが、社会実験をやるとしても地域を巻き込んでということになりますので、そのことを十分考えて実施していく必要があるなと痛感しているところでございます。

○鹿浜昭委員 今、交通対策課長、自分の今の気持ち言っていて、基本的には持続可能な公共交通ということで考えていかなければならない、これが持続、ずっと進めていく上では難しかったというのは結果であったわけで、あしたで終了されてしまうというのは、これは本当に執行機関も精いっぱい頑張っていた、地域もここまでやったけれども結果的にはいかなかった、残念だけれどもやむを得ないということです。

ただ、先日も町会・自治会連合会の方から要望書が届いたというのは私も耳にさせていただいておりますが、地域もそういった意味では、今までそういう社会実験であったけれども、これから何とかほかの方法でもできないだろうか、強い地域からの要望はあるかと思っています。

ですので、先ほどから副区長も言っていますけれども、やはり地域に随時的確な話合い、葛飾の方でも運営協議会を設けて地域との間で進めてこのグリスロが立ち上がったという話も伺っておりますので、是非その運営協議会、これを早急に立ち上げていただいて、地域の声をしっ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

かりと聞いてやっていっていただきたい。これを強く要望させていただきます。

○小泉ひろし委員 今、鹿浜委員からお話、ブンブン号も明日で終わりということで、本当に残念だと思います。地元地域の皆様の思いからしたら、次なることが見えていない、本当に残念だと思います。

区も一生懸命努力してくれて、例えば勉強会でもサポート制度ですとか、小さな交通というか、様々な現状だとか、それなりに勉強会でも意見を聞いたと思うのですが、こういう陳情者とかそういう勉強会の場以外に、区に直接問合せだとか意見、また区民事務所、町会・自治会を含めて御意見だとか、そういうのは寄せられていますでしょうか。

○交通対策課長 勉強会にも御参加いただいていた中に、例えば花畑の地域であれば検討会のメンバーであられた区長会長さんですとか、その後も何回かお話はさせていただいております。

○小泉ひろし委員 先ほど白石委員の方から、全体観に立ってというお話がありました。本定例会の議会でも、また予算特別委員会でも様々な質疑がされたわけですが、他の地域でも協働事業へ変更する路線ということで★★運行ができるところはいいですが、この3月をもって間もなくブンブン号と同じく廃止を予定している路線があるわけです。

私も住んでいる地域でも、この10号については様々な意見が寄せられています。区役所だとか西新井だとかどうやって行くのですかと。残念ながら廃止になる、利用者が少なくてバスの運営、採算ということだと合わないのではやむなく事業者としては廃止するわけだけれども、今、足立区全体の問題として、どのように交通弱者というか、その方々の足を確保するかということで議論しているところだと。サポート制度だとか鹿浜・入谷でのデマンド交通、こういう例も示しながら皆

さんの声をいろいろ聞いております。

理想は、無料で自分の地域の近くをそういう便利なものが走っていて、いつも利用する場所へ足としてできれば理想なのですが、その辺、先ほど副区長お答えになったように、何を優先的に求めているのかとか、そういう声はこれからしっかりと拾っていく必要があるかと思います。

運営協議会の話もございしますが、これからどのように、ブンブン号のこの地域だけじゃないわけです。本当に目の前に迫っているのはあっちもこっちもなわけです。やはり公平性も必要ですので、なぜこの地域だけお金使うのかとか、この地域だけに力入れるのかという声も出るわけです。

そういうことも含めて、全体のバランスを見ながら声をしっかりと拾って、仮に税金を投入するのでもそういう判断していかなくちゃいけないと思うのですが、その辺いかがでしょうか。

○交通対策課長 今、小泉委員の方からございました10号についても、今月末で終了ということになります。実は、10号の方のところにも、私これから、今日の午後ですけれども、地元へ伺わせていただくようなこととお話もさせていただいているところでございます。

また一方で、公平性というお話も今ございましたけれども、そういうところも今度のサポート制度の中でも何らか示していくような形で、区内を客観的に見たときには、交通空白というのは、駅から1,000m、バス停から300mという円を描いていくとそんなに白くなる部分はないのですね。そうすると、差がない中でここには入って、こっちは入らないというのはなぜなのだと確かに皆さん思うと思いますので、そういう意味では、やはり不便を感じている地域との協働といいますか、そういうふうにしてやらせていただく一つとして、地元の皆さん方と一緒にやっているというのも大事なのかなと考えているところですので、そういったところについても更に検討を深めてい

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

きたいと考えております。

○小泉ひろし委員 私も、いろいろな意見とか、がっかりした声とか様々頻繁に受けております。ただ、これ署名活動をやれば解決するのか、そういう問題ではないわけです。一部分の地域だけの問題でもないし。

町会長だとか自治会長の方からも相談受けておりますけれども、これは本当にサポート制度なんかも区は考えているので、もし希望があればそういう可能性も出てきますよという御説明とか、入谷・鹿浜のデマンドが順調に立ち上がっていくのであれば、単なる費用無料でということではなくて、経済的に対応できる方は自分でタクシー呼んだり、アプリ使う、使わないは別にして、タクシー呼んで普通にどこでも行けるわけですね。問題はそういうことができない方々、また自転車等が乗れない方のことを考えていかないといけないので、その辺しっかりと声を拾っていくことはよろしくをお願いしたいと思います。要望で。

○しぶや竜一委員長 他に質疑。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○しぶや竜一委員長 質疑なしと認めます。

これより各派の意見を求めます。

○白石正輝委員 委員長にお伺いします。請願は1つずつですね。どちらも一緒ですか。

○しぶや竜一委員長 一括です。別々で判断はしていただいて構わないのですが、議題は一括です。

○白石正輝委員 もし委員長の方で一括という考えがあるならば、別にしてほしい。我が党としても、22号と38号については考え方が若干違うので、別々に採決してほしい。

○しぶや竜一委員長 採決は別々です。議題が一括なだけで、採決は別々なので。

○白石正輝委員 採決は別ですね。

○しぶや竜一委員長 はい。

○白石正輝委員 今の採決は22号ですね。

○しぶや竜一委員長 それと38号、両方について

別々の意見を言っても構わないので、よろしくお願いいたします。

○白石正輝委員 22号については、執行機関もこの委員会もほとんど約束だったのですね。実験的に走らせるけれども、収支率が当初は85%にいかねばやめますと。それが下げて、この中の話合いの中で下げて、20台まで下がったのですね。ところが、現実的にはそれもクリアできなかったと。だから廃止するというのは、執行機関側の約束だし、この委員会でも大まか話は付いていたわけです。

ただ、先ほど言ったように非常に難しいのは、この提案が我が党の前の幹事長なのです。その幹事長の顔を潰して不採択にすることについてはなかなか難しい。我が党としてはそういうふうに思うので、22号については継続でお願いしたいと。

38号については、これからしっかりと勉強させていただいて、足立区全体でどの形の交通機関が最も必要なのかということについてはもう少し勉強させていただきたいので、これも継続と。

○太田せいいち委員 まず、22号です。先ほどもお話しさせていただきましたが、受皿となる地域内交通導入サポート制度、こちらの枠組みをしっかりと見届けたいと思いますので、継続とさせていただきます。

また、グリーンスローモビリティについても、同じく地域内交通導入サポート制度の重要な選択肢として考えていただいているということですので、その中でしっかり枠組みつくっていくところを見極めてまいりたいと思いますので、継続でお願いいたします。

○山中ちえ子委員 22号に関しては、収支率だけで切り捨てるといったことですね。検証の中では小型バスにするのかいろいろな検証結果が出て、板橋区のように収支率が目標に達しなくても乗車率が伸びているというところにしっかり依拠して、

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

みんなで育てていくといったコミバスをつくとか、そういったいい事例がいっぱいあるのに、グリスロの陳情も同時に出ていたにもかかわらず、次の議論を全くしなかった、次をどうしようといった熱意もなかった、そういった点では本当に反省していただきたいし、今、急いで対策を取っていただきたいということもそうですけれども、22号に関しては採択を主張したいと思います。

そして、38号のグリーンスローモビリティについても、これは松戸型のボランティアでやっていたところで衝突事故が起きて、免許返納しなくてはいけない年齢の高齢者が責任を感じて地域でやっていた、そういった中で事故を起こしています。だから、ボランティアでどうなのかといったところの議論、その議論でやっていってはいけないといったことも陳情者は思いを込めています。だから、杉並区のような事例も参考にしながら、事業者と信頼関係を築きながら地域の交通基盤をつくっていく、そういう寄り添いを区の執行機関にも見せていただきたいし、グリスロも積極的に議論していくということで言えば採択です。

○土屋のりこ委員 22号に関しましては、以前、質疑の中でもお伺いしましたが、収支率達成した場合に一定の経費を掛けてここで継続しようということと考えられていたわけですから、確かに今のままの形で継続というのは困難でしょうけれども、もともとこの地域の交通を守とるために掛けようとしていた費用の枠内で収まる範囲で、何かしら縮小なりして、ブンブン号ミニとか、そういう形でできないものか、やってはどうかと私は考えますので、採択を求めます。

38号についても、新しい交通の在り方ということで、是非早期に検討していただいて、導入の方向で行ければということで背中を押していきたいという思いがありますので、採択を求めたいと思います。

○市川おさと委員 まず、22号の方ですけれども、

陳情はどういうことを言っているかというと、ブンブン号の本格運行を求める陳情ということ、そのことだけを主張しているわけであります。社会実験終了後ブンブン号を是非とも運行していただきたいをお願いいたしますと、このように書いているわけであります。

しかしながら、私先ほど申し上げましたけれども、当特別委員会においても、既にこのブンブン号を残せという議論は全く行われなくなっています。また、新年度の予算案にも当然入っていませんし、予算特別委員会でも多数でこの予算案が賛成で通過している。また、共産党さんの修正案でもこの件では何ら項目は立てられていません。

前回、前々回、364人の署名があったということですが、このブンブン号が残る可能性があると思ってしまう方も、地元の署名した方の中にはこの議論を知らないという方も中にはいらっしゃると思います。実はあした廃止になっちゃって、当委員会の議論も次のフェーズに移ってしまっている、その後どうするのという次のフェーズに完全に移っています。そうした中で、地域内交通導入サポート制度もしっかり使っていないといけないという形にもなっております。

そういったことを考えますと、この陳情がブンブン号の本格運行を求める陳情、是非とも残してくださいという内容になっている以上、既にその議論は行われていないので、私はこれは不採択にするべき、非常に残念な思いもありますけれども、不採択にするべきだということ、このことを主張したいと思います。

それから、もう一つにつきましては、まだ引き続き議論の余地もありますので、継続を主張いたします。

○加地まさなお委員 私は、受理番号22、公共交通バスブンブン号の方とこれはセットだと思っています。実は、このグリスロをもしかしたら実証実験でまた始められる可能性があるのではないかと

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

と思っています。それで実証実験が行われて、今回の経験も踏まえて可能性は残しておきたいなと思います。陳情者の方にも、明日で終わるから不採択ですよとは私的には言えないですね。気持ちがすごく分かるので。

なので、可能性を含めて、これ両方、結果的には両方継続でお願いしたいのですけれども、グリーンスローモビリティも、ボランティアの方を取り入れるのか、それとも新たな実証実験にするのかでも大分変わってくると思うので、この辺の議論がまだ深まっていません。

例えばこの実証実験グリーンスローモビリティにした場合、結果が出たら、収支率が増えたら、これが新たなブンブン号にまたつながる、乗客数が増える、そういった項目も取り入れていって可能性は残していきたいなと思っているので、もう少し議論したいので、両方継続でお願いします。

○川村みこと委員 22のブンブン号については、先ほど市川委員がおっしゃっていたことと全く同じです。明日終了しますので、この本格運行を求める陳情については、やはり一区切り付ける必要があるだろうと思いますので、不採択を主張します。

38のグリーンスローモビリティについては、引き続き議論は必要だと思いますので、継続でお願いします。

○しぶや竜一委員長 これより採決いたします。

採決は2回に分けて行います。

まず初めに、受理番号22について採決いたします。

本陳情は、継続審査とすることに賛成の方の挙手を求めます。

[賛成者挙手]

○しぶや竜一委員長 挙手多数であります。よって、継続審査とすることと決しました。

次に、受理番号38について採決いたします。

本陳情は、継続審査とすることに賛成の方の挙

手を求めます。

[賛成者挙手]

○しぶや竜一委員長 挙手多数であります。よって、継続審査することと決定いたしました。

————— ◇ —————

○しぶや竜一委員長 次に、報告事項に入ります。

1から6、以上6件を都市建設部長から報告をお願いいたします。

○都市建設部長 説明は簡潔にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

初めに、コミュニティバス「はるかぜ」路線の協働事業についてでございます。

大項目で4つ載せさせていただいております。

協働事業の対象路線については、日立自動車、新日本観光、合わせて7路線でございます。

2番の協働事業の協定書についてですが、別添として4ページから33ページを付けておりますが、主な内容としては、協定期間については基本的には1年、最大で3年まで更新、経費の概算でございますが、日立自動車におきましては2億8,000万円余、新日本観光につきましては年間1億4,000万円余を予定しております。

支払方法、精算方法については記載のとおりでございます。

3番の対象路線の運賃の見直しでございますが、こちら実は、はるかぜにつきましては7路線とも210円の料金、また、シルバーパスの利用者が多い中で一般利用者が少ない状況でございます。今後の方針としては、運賃改定を目指していきたいと考えております。

今後のスケジュールは、記載のとおりでございますが、こちらにつきましては、厳しい環境が続きますが、継続的かつ安定的な運営ができることと適切な公費負担により行いたいと考えております。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

引き続きでございます。34ページです。

入谷・鹿浜地区におけるデマンドタクシー実証実験でございます。

本委員会でも何度か御報告しておりますが、今回、1番として協力事業者の募集結果でございますが、3社から申込みがございました。

2番で、その他の事業者の不参画理由を記載しておりますが、各社いろいろな事情があります。これにつきましては、実証運行、実証実験の際には何か変更できる点があるかもしれませんので、これはまずやってみてから改めて見直しをさせていただきます。

3番の事前利用者登録についてでございますが、オンラインにつきましては今年の5月13日、窓口では5月20日からでございます。

出張登録会等々ありますけれども、是非多くの方に御参加いただければなと思っております。

4番の利用ガイドですが、別添資料として、またSideBooksにも掲載しておりますが、御一読いただければと思います。こちらについては、全戸配布をしております。

口頭で申し訳ありませんが、先ほどの大きな1番の協力事業者でございますが、もう1社★★がございました。会社名につきましては、明治交通株式会社様でございます。こちらについては、今後の運行状況のこともありますので、改めて御報告させていただければと思います。

戻ります。5番の本格運行への移行基準でございます。こちら36ページにあります。これにつきましては、11月16日、昨年の総合交通対策調査特別委員会でも報告しておりますが、こちらの大きく4点について見ながら、本格運行に移るのか、また見直す必要があるかということを検証させていただければと思います。

また、6番の利用者アンケートでございますが、こちら重要と考えております。調査期間、対象者、調査方法は記載のとおりですが、このアンケート

の内容も踏まえての見直し、また★★させることがあれば中身に反映させていただければと思います。

7番の今後の予定については記載のとおりでございます。

引き続きでございます。37ページです。

シェアサイクル実証実験の取組み状況でございます。

現在、区内におきましてシェアサイクル実験を行っております。

概要の目的、方法、期間については記載のとおりでございますが、現在、実証実験の状況としまして、令和5年12月時点でサイクルポート数が150か所、利用ユーザー数としては1万4,000人余を超えております。

かなり利用がありますが、大きな2番で、延長した実証実験の中で行うこととありますが、サイクルポート数を150か所から、できれば212か所まで増やしたいと思っております。その中で、現在、公園、道路上、民間事業者等の設置について協議を進めております。1年間延長することによりおおむね目標ポート数を達成するように、現在、中で調整しているところでございます。

大きな3番、今後の方針でございますが、先ほど申し上げた212か所の設置が完了した後、本格導入へ移行したいと思っております。

以下、参考としまして、他区の本格実施の状況について記載させていただきました。

続いて、39ページでございます。

竹ノ塚駅東口自転車駐車場及び江北駅西自転車駐車場の運営でございます。

設置の経緯は記載のとおりですが、設置開設から10年たっております。おかげさまで高い稼働率と放置自転車対策に寄与しておりますので、引き続き、今回、区の方から改めてこちら2か所につきましては、大きな3番に移りますが、プロポーザル選定、また競争入札において運営事業者を

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

選定したいと考えております。

4番の利用実績でございますが、これ令和4年ベースでございます。利用台数等記載のとおりですが、一時利用の稼働率としては100を超えておりますので、かなり利用されている状況でございます。

繰り返しますが、これによりまして駅前の放置対策がかなり進んでいると考えてございます。

また、40ページ、5番の料金改定でございますが、若干でございますが、安くなるといったほうが正しいのでしょうか、2時間無料については継続しておりますが、1時間当たり100円、また竹ノ塚につきましては24時間最大料金500円を設定させていただき、江北につきましては、現在8時間110円のものを12時間100円に改定させていただきます。

今後の方針は、記載のとおりですが、引き続き放置自転車対策に万全を期していきたいと考えてございます。

引き続きでございます。42ページでございます。

竹の塚東自転車駐車場の運営でございます。

42ページの下に図がございますが、補助261号沿いの道路内にあります駐輪場でございます。現在、A棟、B棟、2棟あるのですが、1、400台、700台、計2、100台の利用者をいただいております。

今後ですが、実は261号線が開通しますと、こちらの駐輪場を廃止することになります。令和10年度に廃止予定しておりますが、その間駐輪場としましては、43ページにありますとおり、募集の新規受付を停止し、利用者を減らしつつ、東武鉄道の高架下に駐輪場が開設されるのですが、そちらにうまくシフトしつつ、それでも足りないものについては、竹ノ塚駅周辺のところに区営の駐輪場を改めて整備するという内容でございます。

次の話でございますが、現在から進めていかな

いと駐輪場が足らなくなる可能性がありますので、今回御報告させていただきました。

また、新たな方策等ができましたら、改めて御報告したいと思います。

続いて、43ページでございます。

有楽町線（地下鉄8号線）の整備促進に向けた取組み状況でございますが、1番としまして、誘致期成同盟の要望活動について、埼玉県及び茨城県に実施、日時、記載のとおりでございますが、行わせていただきました。

2番、梅まつりでのPR活動実績結果でございますが、2月25日大谷田公園におきまして、主な内容としまして、パネル展示等を実施させていただいたところでございます。

○しづや竜一委員長 それでは、質疑に入ります。

何かございますか。

○山中ちえ子委員 まずは、竹の塚東自転車駐車場の運営についてですが、今のA棟、B棟も福祉的なスペースというのがあって、ここになかなか止められないと。止められない場合2階に行かなくてはいけなくて、2階がスロープで押して行かなきゃいけないということで、大変だという声があります。

なので、これ仮設を造って、そしてその後また本格的に駐輪場を造っていくということでしょうか。そういった意見をしっかり聞いて、次に策定していったほしいのですが、その辺はどうですか。

○交通対策課長 山中委員おっしゃるとおりで、そうした方への配慮のある駐輪場ということで整備を進めていきたいと考えておりますので、まず、一旦この報告の中では、新規の定期的申込みの方を減らしていくという形で人数を減らしていきたいと考えております。

その中で、次、また一定数は区の方で整備をしないといけないので、そこの中で配慮ができるように検討してまいります。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○山中ちえ子委員 そういった契約者数が減っているというのがありますけれども、減らさないで維持はしてもらいたいと思いますが、どうでしょうか。

○都市建設部長 なかなか区有地に全て公営で駐輪場を整備するということは現実的ではないというのは、実は民業圧迫につながりかねないところもあります。

ただ、かといって放置自転車が増えては本末転倒でございますので、利用状況を踏まえて、適切な位置に区営駐輪場については設置したいと考えております。

○山中ちえ子委員 この部分だけでなく、放置自転車の問題では、少し進んでカリン通りに入るところの交差点にもあふれている状況です。そのこのビルの駐輪場については、2階部分が使えなかったりしてあふれてしまっているのです。だから、そのビルのオーナーとの話合いで、しっかり使える駐輪場にしてくださいというお願いもしていないといけないと。

先ほど民業圧迫になってはいけないといったところもそうですけれども、その辺のあふれている自転車の問題を解決していくということも、併せてお願いしたい。

○交通対策課長 ★★ビルさんの横かと思うのですが、ビルの方ともお話をさせていただいております。

また、区の方の放置のパトロールについても、重点的にそちらの方も対応するようにということでやっておりますので、引き続きしっかりやらせていただきたいと思います。

○山中ちえ子委員 この報告のデマンドの社会実験も含めてですけれども、今回、私たちは不便地域の割り出し方の概念、ここをほかの進んでいる自治体のように見直していくと。要するに、鉄道から1km、バス停から300m以上離れているところでないとい不便地域にならない、1日1便や2

便だったりするような減便されているところは不便地域に入らないというようなことになってしまいますので、高齢者、障がい者の人も交通不便だというふうにならなくなってしまいうけです。

高齢化が激しい現在、この方針が合わなくなってきたというところの見直しも含めて答弁を求めているのですが、この部分で答弁がなかったので、そういったこともどういうふう考えていくのかといったところでは、令和7年の地域公共交通総合計画についても関わる問題ですから、デマンドタクシーをやるといったところでもこぼれ落ちていってしまう、本来使わなくてはいけないような方々が使えないという状況にさせてはならないといったところでも、そういった概念が見直されるべきだと思いますが、どうでしょうか。

○交通対策課長 これからやらさせていただきます入谷・鹿浜のデマンドの実証実験につきましては、令和元年の総合交通計画の中で定義させていただいております不便地域は不便地域ですけれども、バスはある程度充足している、でもやはり不便感があるということで、バスではない交通でということでの地域の位置付けでございました。

ですので、今、山中委員おっしゃっていただいたように、駅から1,000m、バス停から300mという空白の定義とはまた別な考え方で、うちの方としてもやらせていただいているところがございます。

この点については、次期の計画につきましても整理をさせていただきながら、継続させていただきたいと考えております。

○山中ちえ子委員 今回、既存バスの事業の存続といったところでは、協働事業を6路線では財政支出するということですが、そういった中で社会実験デマンドタクシーがどうなるのかというのは注目されていることだと思います。

なので、この実証実験期間というのもそうですし、登録の受付や本庁舎の窓口もあると思います

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

けれども、どの程度受付に今の状況は考えているのか、どの程度の方々が周知できているというふうにみなしているのか。

○交通対策課長 先日の広報でも予算の特集号のところで少し記載させていただきました。また、改めて4月25日から5月10日か、どちらかでは特集号を組ませていただきたいと考えております。

また、特に地域の方に登録会等も実施させていただきたいと思いますので、そういったことについても別途御案内させていただきたいと思います。

○山中ちえ子委員 いろいろな検証がされる社会実験であり、実証実験ですから、利用料だったり事前予約のところではどういう改善が必要なのかとか、そういったところもしっかり分析されていくべきだと思っています。

あと、この地域を区切って、そして交通結節点や医療施設、公園、商業施設、公共施設といった25か所に絞った共通乗降所ということで本当にいいのかといったところでも、しっかり意見を聞いていってほしいと思います。実証実験なので。

利用者さんが少なかったからといって終わらせるのではなくて、何で利用者が少なかったのか。乗合タクシーにするとか、そしてデマンドといったところでは、事前予約ということですが、事前予約でなくて定地定点でやったほうがいいのかとか、そういった検証もされるべきだと思いますが、その辺ではどうでしょうか。

○交通対策課長 先に、バスのような定時定路線ですか、そうした形というのは、逆にこの地域の皆様方としてはバス停まで行くのもという声もございましたし、病院への通院等で非常に不便を感じているということなので、家の前から乗れるような形ということで、今回やらせていただこうと思っています。

また、利用状況等については、山中委員おっしゃるとおり、意見をしっかりと伺って、改善させられるようにしていきたいと考えております。

○山中ちえ子委員 持続可能といったところも、一つ大きく問われると思うのです。こういったことが必要な方はある一定程度人数いると思うのですが、そういったところだけの利用になってしまうことではやはりまずいと思うし、これだけでいいのかといったら、この地域でこれだけでいいと思っている方もいないと思います。やはり組み合わせて、コミュニティバスも含めてですけれども、コミュニティバスを新しいところに拡充していくという方針ではないわけですが、小さな交通を乗降所までとか、そういった工夫ですね。

板橋区の例で言えば、バス事業者と学識が入って、競合路線にならないように不便地域を解消していくといった参考例もありますので、その辺ではデマンドタクシーを拡充していく、よりよくしていくといったことも多分期待されていると思いますけれど、住民の方に。

それだけではなくて、やはり持続可能、そして競合路線にならないような地域の発展に尽くす交通にしていくといった点でも、併せて考えていってほしいと思いますが、どうでしょうか。

○都市建設部長 当委員会で何度か私も申し上げておりますが、さきに大竹委員から御質問いただいた地域公共交通計画を策定する、この中で非常に肝の部分だと思っています。

足立区の人口規模とか地域特性、特に当区は公共住宅も多いところですので、そういったところを踏まえると、デマンドタクシーがいいのか、それともシルバーバスの延長上でやっていく方がいいのか、また小さな交通がいいのか、かなり議論していかないと全体計画をつくれないうと思っています。

その中で、こういった交通が足立区の中で適切かということを議論していきたいと思っていますので、場合によっては組み合わせるということも必要かもしれませんし、あまり利用がなければ、ここで言うのも何なのですが、廃止なり見直しす

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ということも当然必要だと思っておりますので、当委員会にまた今後も報告させていただきますが、かなり幅広い議論をいただければなと思っております。

○市川おさと委員 今の部長の話を聞いていると、いろいろな手段、バスにしても、グリスロにしても、オンデマンドにしても、それぞれの地域にに応じてというような話だと思うのです。そのように聞こえました。

ただ、私は、私の思いから言ったら、やはりバスというのが一番いい。バスが走ってくれるのが一番うれしいな。バスがどうしても駄目だから、しょうがない、グリスロなりオンデマンドのタクシーなんかに行くのかなという思いでいるのですが、このあたり、改めてそごがあってはいけないのでお答えください。

○都市建設部長 現在の社会情勢において、すみません、反論するわけでは決していないのですが、当然のことながらバス路線が区内の基幹路線として重要だと、この認識は変わっておりません。

ただ、一方で、やはりバスの運転手さん不足ということで、減便なり、ある意味致し方ないところをどうやって補完するかという議論が重要かと考えております。

○市川おさと委員 今の言い方は、聞きますと、反論と言われましたけれども、私もそういう認識であります。やはりバスというのは重要だと。

その観点から言いますと、コミュニティバスはるかぜ路線の協働事業についてですけれども、大変重要なバス事業を今のままではるかぜが継続できないということで、区のお金を入れるということで、私もこれは大賛成であります。

そうした中で、例えばブンブン号では収支比率について初めに設定があったわけですが、この事業につきましては、このコミュニティバスはるかぜの路線の協働事業に関しては、収支比率についてはどのような認識をお持ちですか。

○交通対策課長 この場合には、ブンブン号と比べるわけではないですが、それ以上の利用者があるということが前提かと思います。

当然、利用者の状況によっては、調査もやっていきますけれども、例えば夜間の便で非常に利用が少ない便があるということであれば、そういうふうにならないように変えていく必要もあろうかと思っておりますので、その辺はしっかり見ていきたいと考えております。

○市川おさと委員 そうしますと、利用の実態というか、この数値については定期的に議会の方にも、当然執行機関の方に行くわけですから、それも見せてもらいたいなど。

そうした基本的な材料を基に、当委員会、この委員会がどこまで続くか分かりませんが、議会の方でもしっかりと考えていきたいと考えているのですが、いかがですか。

○交通対策課長 本日の資料の中にも、事業者さんの方から毎月出していただく運行収支、月次の報告、それから半年ごとに出していただく事業収支報告書、そうしたもので区の方もしっかり把握させていただきたいと思っております。

また、この内容につきましては、全部ということにはならないかもしれませんが、議会の方にも御報告させていただきたいと思っております。

○市川おさと委員 本当にこのはるかぜ、できるだけ残っている路線は残してもらいたいと思います。私もしっかりとできる限り応援してまいりたいと思います。

それから、入谷・鹿浜地域におけるデマンドタクシーの実証実験についてであります。

これは最初に言わなくてはいけないのが、近藤区長の発言、全員協議会の場で、これははっきり言ってしまいます。これ3事業者、4事業者ということだけでも、1事業者しかまだ見つかっていないということが、あの場でパコッと言われて驚愕したわけですよ。ほかの議員もみんなそうだと

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

思うけれども。

要するに、事業者が手を挙げなければこの話は一步も進まない事業なわけで、あの場で、全員協議会で、近藤区長が1事業者しかまだ決まっていないと直前になって言われて、驚愕したわけがありますよ。その辺の状況についてどうだったのですか。

○都市建設部長 全員協議会が1月末にありましたが、その時点ではということで、当然、経過報告で区長には説明しました。確かにそのときは1社でしたが、今日改めて御報告させていただきますが、記載は3社ですが、プラス1社の4社ということで、基本的には当たりを付けておりましたので、こういうことを言っただけですが、1社ということは私ども想定はしておりませんでしたが、少し発言について、区長の発言でございますが、私がという発言ではなく、その時点では1社という事実を述べただけだと、私ども理解しております。

○市川おさと委員 要するに見通しがあったわけですよ、はっきり言って。見通しがなければ、こんな事業始まるわけがないのだから。それをあの場で区長が1社しかまだ決まっていないなどという言い方をされたら、議員みんなびっくりしたわけですよ。

その辺は、区長も、政策理解力というか、頭の回転も速い人だから言ってしまったかもしれないけれども、ちょっとあんまり議員をびっくりさせないようにということ、これ言うのは都市建設部長はまだキャリアが残っているから言いづらいかもしれないけれども、副区長、しっかり区長に言ってください、これ。

○副区長 そのときの事実を区長は説明されたと思いますけれども、やはりきちっと見通しが立つようなもの、そういったことを議員の皆さんに不安を与えないような言い方をするように、私の方からもお話をさせていただきます。

○市川おさと委員 副区長、そういうこともしっかりと言える人だと思いますので、よろしくお願いします。

それから、先ほど説明の中で明治交通さんも入るということで、これ、ひょうたんから駒みたいな話だけれども、予算特別委員会の中でも長谷川委員の方からそれを聞いてびっくりして、個人的に話をして連れてきたという話があったのですね。それがこの明治交通さんという理解でよろしいのですか。

○交通対策課長 明治交通さん、うちの職員も昨年からヒアリング等もさせていただいておりました。その中でどうしようかなという話もいただいておったところですが、最後、長谷川議員のお話をいただいて御推薦いただいたところでもございます。

○市川おさと委員 本当にこれはひょうたんから駒みたいな話ですけれども、議員たるものは、ただこういう場で執行機関にあれやれ、これやれと言うだけでなく、ちゃんと現場に入って事業者を持ってくるということも必要なのだな、大切なのだなということを私も改めて、6期になりますけれども学んだという次第で、本当に見習いたいなと思います。

それから、このオンデマンドですけれども、利用者アンケートを8月から9月の調査期間にやるということですが、さっきの話の続きで、この利用者アンケートを待たずに、実際の利用実態の数値というのは刻々と出ているわけで、執行機関の方に行くわけですから、これについても、利用者アンケートが来るまで待つというのではなくて、どの程度利用されているのかということは議会の方にも報告してもらいたいと思いますが、いかがですか。

○都市建設部長 先ほど報告の中でも触れましたが、今回の枠組みをそのままずっと期間中やるということではなくて、アンケートで頂いた結果については当然当委員会に御報告するとともに、改善でき

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

る点が拾えれば、それについては逐次見直していきたいと考えております。

- 市川おさと委員 利用実態について、どのぐらい利用されているのかということにつきましても、今これ事業者の側から出ているけれども、実際住民の方が利用しなければこの事業続くわけがないのだから、住民の方がどの程度利用しているのかという数値につきましても、議会の方に報告してもらいたいと思いますが、いかがですか。
- 交通対策課長 随時報告させていただきたいと思えます。
- 市川おさと委員 最後になりますけれども、入谷・鹿浜というと私の地域にもかなり近いわけで、実際、地元の方々、もうすぐ事業始まるわけですが、手応えというか、実際にこの事業を使ってくれるというような、楽しみにしているとか、そういうことはどうなのでしょうね。どの程度ありますか。
- 交通対策課長 いろいろとお声は頂いているところでございます。一方で、はるかぜ3号がこの3月で終了するという話もございまして、入谷の地区の団地の方々には、3人で一緒に乗って使いたいので是非早くやってほしいというようなお話も頂いているところなので、是非しっかり周知もやらせていただいて、利用していただきたいと考えております。
- しづや竜一委員長 他に。
- 大竹さよこ委員 この入谷・鹿浜地区におけるデマンドタクシー実証実験について、本会議の一般質問でも、そして予算特別委員会でも様々質問させていただきました。

その中でも、特に使っていただくためには登録が必要、この登録をしていただくには2か所しかない。オンラインか若しくはこの区役所に来てということでございます。

これ繰り返しになりますけれども、デマンド交通を導入せざるを得ないということは、やはり交

通が不便ということでございます。この地域から区役所に来ること自体が厳しい中で、この登録の場所が区役所ないしはオンラインということで、また、利用する方、予想される方は高齢者が多いであろうということになりますと、オンラインでの申込みというのも非常に大変だと思えます。

そうはいても、区の方では、代替案、同じ案として登録会を行うということでございますので、この利用ガイドをこれから全戸配布されるということでございますから、この利用ガイドを配布されるときに一緒にこの登録会の日にちや会場をチラシにして、一緒に是非配布していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

- 交通対策課長 現地の方で登録会を、今、5か所は決めてあるのですが、そこについては日程を先に決めたいと思っておりますので、できれば利用ガイドの裏面のところに、そこにはタクシー事業者さんの電話番号とか入るのですが、スペース的にありますので、入れられればなと思っております。

また、それとは別途、例えば日にちですとか曜日を決めて、職員が例えば鹿浜の区民事務所のところで待機するとか、そういったことも検討しておりますので、その辺につきましても、決まり次第御報告させていただきたいと思っております。

- 大竹さよこ委員 そうですね。登録をしたくても登録のところがハードルになってしまつては、これは非常に残念な話でございますので、まずは登録、この作業については丁寧にサポートをお願いしたいと思います。

ちょっと質問なのですが、この乗車するときに利用者の登録証というのを首から掛けるというふうになりますが、首から掛ける名札、よくありますね、役員の方とかお下げになる。これは自分で用意するのですか。

- 交通対策課長 この件、たしか以前の委員会で川村委員からもお話をいただいたところだったと思

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

うのですが、お持ちで必要ないという方は、うちの方で確認させていただいて差し上げないですけれども、一応区の方で準備はさせていただきます。

○大竹さよこ委員 ここに、つり下げ名札に入れてというふうに書いてございますので、区民の方こういうものをきちんとされる方いらっしゃると思いますので、そのあたり利用していけばいろいろフレキシブルにはなってくると思うのですが。

もう一つ、利用料金ですが、迎車料金と運賃、これの合計が2,000円未満の場合は500円、2,000円以上の場合は1,000円となっております。

この迎車料金というのは一律ではないと思うのですが、例えば区民の方がこの距離だから多分2,000円未満で行かれるであろうと予想したにもかかわらず、迎車料金が思わず高くなってしまい、そういったケースは考えられないのかお伺いします。

○交通対策課長 今、確認しているところでは、400円というところがほぼほぼで、一部300円というところもあるので、その辺ちょっと確認をさせていただきます。

○大竹さよこ委員 この迎車料金というのがどれぐらい掛かるのだらうというのも、区民の方の御不安の一つになるのかなと思いましたので、そのあたりも明確にさせていただけるとありがたいです。

最後に、協力事業者が4社になったということで、大変よかったなと思います。ただ、その他事業者の不参画理由について、ここに2番で大きく(1)(2)(3)(4)と述べられておりますが、特にこの(1)と(2)、こういったことが今後技術的に、例えばアプリの導入は難しいという現状でございますが、今後そういった技術で解決するのかなと思います。

今後、この実証実験続ける中で様々な課題を解決していただくというふうに思っておりますけれども、このあたりITの技術革新、こういったこと

はどのようにお考えなのかお伺いします。

○交通対策課長 他の自治体等でもいろいろな事例がございますので、そこを私たちも参照させていただきたいと思っておりますのでございます。

ただ、一つ、アプリを利用することは非常にいい部分もあるのですが、そうしたことでタクシー事業者さんの方としては、それをセットした車はそこに待機するような形になってしまうというのも一つあつたりしますので、事業者さんの参入しやすさと地域の方々の利用しやすさ、そういったところも両方見ながら検討させていただきたいと思います。

○大竹さよこ委員 アプリ以外でも、もしやりやすい方法などがありましたら、そういったこともどんどん導入していただければと思います。

まずは、アプリを使っていただいて、そしてそこから見えてくる課題、またアンケート等の意見を頂きながら、よりよいものにしていきたいと思います。要望です。よろしくお願いいたします。

○加地まさなお委員 私も、デマンドタクシーのことをお伺いさせていただきます。

確認ですけれども、先ほど家の前まで来ていただける、選択肢が2つあると思ったのですが、それでほとんど住所をお伝えすれば来ていただけるということでしょうか。

○交通対策課長 登録の段階でもそうですけれども、お名前と住所ということで登録していただいたときに、その方に番号が付きます。タクシー利用する際には、お電話をいただいてお名前と住所とその番号ということで、自分が家から乗るのであれば家の前ということでお伝えいただければと考えています。

○加地まさなお委員 お伝えする場合に、スポットで待ちますよとか、自宅の前ですよというのを伝えなきゃいけないということですね。分かりました。ありがとうございます。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

特に根本的なところで、実証実験自体を区としては成功させたいと思っているとは思っているのですが、それはお伺いさせていただいてよろしいでしょうか。

○都市建設部長 やるからには成功させていきたいと思っておりますし、先ほど大竹委員からありましたとおり、利用が仮に伸びなければ、その分析と、どういったことを改善していくかということも踏まえて、できれば区内で横展開できればと思っておりますので、試金石ではありませんけれども、是非成功させていきたいと思っております。

○加地まさなお委員 本当に実証実験が続いて、今回もこれ見させていただいて、本格移行への移行判断基準は4つの指標を全て満足することを基本とすると、難しい言葉を並べているのでますね。

調べてみたのです。満足って何だろう。これ完全なことです。十分なこと。基本って何だろう。その物事を中心、軸ですね。これ結構ハードル高いのではないかなと思ってしまうのですが、どうですかね。

○交通対策課長 社会実験を1回やったところで全部を満足すれば、それはそのまま本格という考え方もあるかなと思うのですが、幾つか改善点があって、それを改善することで、再度本格ではなくてもう何か月間か実施するとか、そういったことは考えられるというふうに。

○加地まさなお委員 私、やる限りはやはり成功してほしいと思っているのですが、実証実験の延長ということですね、多分。やり方をその都度改善していくということは今分かったのですが、この延長にいく場合の基準、ブブン号も延長していますけれども、その対象の基準というのが明確なものというのはありますか。

○交通対策課長 そこにつきましては、社会実験実施というところでスタートでは、今の段階としては、それを延長するということは、議会へ御報告して議論いただくという必要があろうかなと思

っております。

○加地まさなお委員 分かりました。それと、またこれを成功させてほしいという気持ちからですが、これ高齢者の方が、限定ではないですが、交通不便地域の解決に向けての取組なので、少し周知の仕方を考えなきゃいけないのではないかと。例えばどんなに紙で書いたりしても、分からないのですね。

その場合、どんな方でも動画は結構見るのですよ。動画は見やすい、教えてくれよと。そうすると、ある程度こういうふうにしたほうがいいよというPR、広報ですかね。ここで言っている話なのか分からなかったの、大丈夫でしょうか。大丈夫ですか、はい。

これ肝なので、こういうものがあるよと。特に住民の皆様、多分知らない方の方が多いのです。どれだけこういうのを配られても見ないし、横のつながりで言われても、ああ、ちょっと分かんないからになってしまうのです。

だったら、動画等を撮って、こういうものがありますよと、これ大々的に周知の仕方を強化したほうがいいのかと思うのですが、その点どうですか。

○交通対策課長 加地委員からございました動画の話、よその自治体でもそうやって撮っていらっしゃるところもあるなと思っております。

あと一つ、地元の皆様方には、登録会をやる際には、いきなりこの登録をスタートするのではなく、この足タクの内容について先に説明を皆さん方にさせていただいて、それから受け付けて登録会を実施するというような形にしたいと思っております。

○加地まさなお委員 是非そっちの方面も強化していただいて、どんどんやっていただくのと同時に、やはり足タクという、結構かわいいなと思っておりますが、何でもそうですが、ブランド力ですよ、人が乗りたいとか欲しいと思うのは。これ付加価値なので、それにはブランドをどれだけ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

付加価値を上げていくかという広報の仕方が大事だと思うので、とにかく乗ってみたいというふうに思ってくれば、乗って見たら「いいじゃん」ってなるのが多分いいと思うのです。

どんどん乗ってくれる人が増えれば、事業者さんも増えていくし、金額設定も変えられるかもしれないと思うので、そういう方向で是非検討していただきたいのですが、どうでしょうか。動画の方も。

○交通対策課長 加地委員ごもっともだと思いますので、やらせていただきたいと考えています。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。ちょっと話変わりますが、先ほどの駐輪場、竹ノ塚駅東口駐車場、江北駅西自転車駐車場運営ですけれども、これいつ頃からプロポーザル始める、私の認識だと区がこれからずっとやっていくというふうに思っていたので、ちょっと勘違いしていました。

○交通対策課長 プロポーザルで選定された事業者が、今、管理をしています、竹ノ塚とライナーのところ。そこに今度の4月から管理の中に入れさせていただくということでございます。

平成26年当時からここを事業者さんが10年間管理していた、これもプロポーザルでやっていただいた内容でございます。

○加地まさなお委員 分かりました。ありがとうございます。ちょっと分かりづらかったのです。

それと同時に、江北駅の駐輪場も、竹ノ塚の駅前もですが、ちょっと暗いイメージがありますね、夜。特に江北駅のところは、エスカレーター下りた裏側にあると思うのですが、結構暗いです。

これは防犯の観点も兼ねて、街灯といいますか、そういうのも付けて防犯も兼ねているよみたいなことをやるというのはどうですか。そんなに金額的には掛からないと思いますが。

○交通対策課長 既存の歩道の街路灯で照らしている状況かなと思いますので、そのあたり確認をさ

せていただいて、少し不足しているようであれば、明るめにできればと考えております。

○加地まさなお委員 自転車の盗難が多いのも、やはり暗かったりするものもある。もちろんあそこに止めているので盗みはしないですけども、暗い場所というのは、どうしても自転車が止まっていたら勝手に自転車止めちゃったりするのですね。明るい、人が見やすੀとなると、ルールを守るという方向に行くと思うので、是非それは要望させていただきたいと思います。

と同時に、シェアサイクルポートを今後増やしていくというところで、公園設置の仕方ですけれども、公園の中でどういう形で設置して、正に今回の街灯の問題もありますけれども、防犯効果兼ねられたらいいなと思っています。そういう観点でも、設置場所というのは考えられているかどうか伺いさせていただきます。

○都市建設部長 現在、試験運用と実証実験ということで、例えばですが、この庁舎にもありますし、竹ノ塚駅ですと竹ノ塚第五公園の中にサイクルポート整備しているところがあります。

見える防犯という意向だと思うのですが、そういった駐輪場をきちんと整備するとともに、例えば防犯カメラですとか、照度であったり、そういうことを重ねてというのは当然のことながら必要だと思っておりますので、関係部署と連携して防犯対策の一助になるように設置したいと思っております。

○加地まさなお委員 正にこの後防犯カメラのことお聞きしようと思っていたのです。ということは、設置する場合には防犯カメラもマストで付きますよという認識で大丈夫ですかね。

○交通対策課長 今、シェアサイクルの場所ということでは、防犯カメラ設置されていないかと思いますが、区の方の駐輪場は仮設でも防犯カメラを付けるようにしておりますので、そのあたり少し検討させていただければと思います。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○都市建設部長 補足でございますが、民間の設置場所については、例えばですが、これも部内で連携することになるのですが、いわゆる電柱等に共架している防犯カメラを設置することによってそこが見えるとか、そういったことを併せて検討していきたいと思いますので、いずれにしても防犯カメラの設置は都市建設部内の仕事でございますので、それについては一緒にやっていきたいと思っております。

○加地まさなお委員 やはり防犯カメラ付けるのも、住民の皆様の意見もあるのでなかなか難しいと思うので、今回、シェアサイクル、区の新しい取組というところ、これは防犯兼ねていますよということを伝えていけば、これは区の取組として、別に住民の皆様の監視するとかそういうことではないですよ。まちの景観、ビューティフル・ウィンドウズやっていますので、その一環ですという形で、街灯も明るめにするということと、防犯カメラ設置いたしますという形で計画を進めていってほしいなと思っているので、要望させていただきます。

○鹿浜昭委員 私の方からも、入谷・鹿浜地区のデマンド実証実験について数点お伺いさせていただきます。

私も、当然、鹿浜地区に住んでいる鹿浜ですので、この件に関しては大変注目させていただいておりますし、是非成功させていただきたいという強い気持ちを持たせていただいて、数点質問させていただきます。

まず、今回、協力事業者が4社になったということで、3社以上という一つの条件があるのかと思いますけれども、1社増えたということで大変ありがたく思っております。

そんな中で、今回、簡単に言うと、約半額を利用者に負担していくということでございますが、この事業者に対して何か助成とか、ここでも書かれていますが、タクシーは基本的に歩合制のため

本実験の協力に収入減となっていないとか、電話のオペレーターがうんぬんと、基本的にはある意味事業者に対してはちょっと不利益が、多分こういう感じになっていくのかなと想像はするのですが、そういった意味で何か助成とか補助とか、その辺は考えられているのか、ちょっと教えてください。

○交通対策課長 タクシーを御利用いただいた金額に対して、1件当たり3%、事務費的なもので区の方から支払わせていただくことを今考えているところでございます。

○鹿浜昭委員 それは他の自治体のいろいろなそういうことを鑑みてということですか。

○交通対策課長 区の福祉タクシー券の配布が3%の手数料ということでやらせていただいております。

○鹿浜昭委員 そういった意味では、事業者さんもそうやって手を挙げていただいたので、何とか成功するために協力していただけるという強い気持ちがあるからこそ手を挙げていただいたのだなという思いで、通行距離が限定されて限られているわけで、そういった面で事業者から見ればそんなにメリットがある話ではないのかなと、ある意味想像ですけども、そんな思いがあるので、是非そこら辺は順次考えていただいて、何か要望があったら聞いていただけるというような考え方を持っていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○交通対策課長 今、鹿浜委員のおっしゃっていただいたとおり、区としてやらせていただくということに対して御協力いただくという状況であるというのは、私たちも感じているところでございます。

ですので、長く続けていくに当たっては、その中で無理が続いていくとなかなかうまくいかないということもあるかと思うので、そうしたことで実情に合った内容で、賃金だったりも当然上

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

がっていきますので、そういったところが反映できるように、どういう手法が取れるのかあれですが、検討はしっかりやらせていただきたいと思います。

○鹿浜昭委員 その辺は今の姿勢を維持していただいて、是非失敗のないようにしっかりとやっていただきたいと思います。

そこで、さっき加地委員からも4つの指標ということで、ハードル高いのではないかという話がありました。正直、私もちょっと懸念するところがあって、今回の報告資料の中に、6番ですが、利用者アンケートについてということで、ここに移行判断の一つとして、利用満足度が50%以上設けていると。そこでアンケートを取るということで、スタートから二、三か月でアンケート。

私はこれを見たときに、そのアンケートは大変ありがたいことでいいことだと思うけれども、この文言からすると、利用満足度の実態調査という感覚でアンケートを取るみたいなことで考えているのかなと思った。先ほど都市建設部長は、見直しをしていくためのものでアンケートを取っていくという話があったけれども、当然私もいろいろな意味で改善するためのアンケートだったらいいけれども、この50%以上を満足するためのアンケートであれば困るので、その辺ちょっと確認で。

○都市建設部長 すみません、私の説明が不足して申し訳ございませんでした。

当然、利用満足度が高くないということは、結果的に利用状況に不満があるということですので、当然それは改善の余地があるものと踏まえてアンケートを取ることにになります。ですので、満足しているか、満足していないかという単純な話ではなくて、どういったところが不満なのか、どう改善したらいいか、そういうことを意見として吸い上げながら改善していきたいと思っていますので、それは鹿浜委員御発言のとおり、それ

だけを捉えているわけでは決していないということです。

○鹿浜昭委員 本当に進めていくわけで、初めての実行実験ということで、そういった意味では執行機関の人たちもまだまだ手探り状態のところはあるかと思いますが、是非これを成功するためにどうしていったらいいか、そういう基本的な考え方で、先ほど答弁いただいているので間違いないかと思いますが、しっかりと私たちも当然協力させていただきますので、是非よろしく願いしたいと思います。

○土屋のりこ委員 私は、シェアサイクルのことについて伺いしたいと思います。

ポート数を増やしていくということで、本格実施に移行するということですが、どうそのニーズに対応するように運営されているのかということも大事だと思います。そういった現状のニーズに対応できているのかどうかというあたりの現状についてはいかがでしょうか。

○交通対策課長 ハローサイクルという事業者さんですが、そこと協働でやらせていただいております。

スマホを使いながら皆さん利用いただいているので、その移動の状況ですとか、時間帯ですとか、いろいろなことが分かってくるわけですが、その細かい部分も分析させていただいて、区の方に報告いただいている部分もありますけれども、まだまだこういうところが不足しているとか、そういったところまで出ていない部分もありますので、今、土屋委員おっしゃっていただいたような視点で再度中身を確認しながら、これから増やしていく部分どういったところが必要かということも、もう一度見ながら進めさせていただきたいと思っています。

○土屋のりこ委員 現状ではあまり把握されていないのかなと思います。

以前、どこからどこに移動しているというふう

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

な報告をされていましたが、それだけでは表れない部分もあって、今日、私、朝、五反野の保育園に子どもを送って行って、帰りこまで10時に間に合うように来るのに、五反野駅前のシェアサイクルを利用できたらいいと思うのですが、ここの区役所の1階のポートが大体満杯なのです。返却ができない。返却する予約を確認してからでないと、せっかく五反野駅で借りてここまで乗ってきたのに、委員会中ずっと下に置いておいて、料金発生する状態で置いておいて、また五反野駅まで乗って帰らなきゃいけないというふうになってしまうということで、キックボードのときにもおっしゃられていましたけれども、ポートから自転車をはみ出してしまっているということであつたり、返却と利用、ここでレンタルしたい、借りたいニーズと返したいところのニーズというのがマッチしないと、なかなか利用につながらない、不便さは解消されないということがあると思います。

私もよく調べるのですが、大体区役所の1階のポートは満杯で返せない、返却しづらいということで、ちょっと外れた環状七号線まで行かないといけないとか、セブンイレブンまで行かないといけないとか、そういった実態です。

以前、テレビでモバイルバッテリーに関しては、アルバイトの方が、返却が多いところから回収して、よく利用されるところに持っていくということで移動されているというふうに言われていましたけれども、こうしたサイクルポート増やしていくに当たっても、そういった人が自転車を運ぶのか、ニーズのマッチングということについても検討というか、把握というか、されていったほうが、区内の利用者のニーズに的確に応えられるようになるのではないかと思います。そういったあたり事業者との協議いかがでしょうか。

- 交通対策課長 土屋委員、大変貴重な御意見を頂いたと思っております。事業者とも協力して、利

用の多いところに対しては台数が置けるようにといますか、利用できるような形を、スペースの問題もあるかと思いますが、可能な限りそうしたところ是对応させていただきたいと思います。

また、今、返すということでは返せて、それを再配置するという話がありましたけれども、都心の方でドコモさんがやられているのは大体そういう形になっているのですが、それも極端に集まり過ぎて放置状態になってしまうというのもあるので、ハローサイクルさんの方では返すところが確認できるというこの形でやらせていただいているようです。

ですので、区の方としても、利用状況を確認の上、そういったところの補強といますか、広げられるようにしたいと思っております。

○土屋のりこ委員 是非ここの区役所とかニーズ多いところには増やしていただくということで、これからポートを増やすということで本格導入に移行されるかと思いますが、そういったあたりの利用者さんへの調査であつたり、アンケートであつたりということもしていただく中で、ニーズに対応できるようにということでお願いしたいと思えます。要望です。

○しづや竜一委員長 他に。

○川村みこと委員 私、2つ伺いたいと思います。

まず、竹ノ塚と江北の自転車駐車場の運営についてですが、これ本来、区へ土地を返すときに原状復帰させて土地を返さなければならないと事業者はなっているというところで、工事費用が必要になるところが今回は不要と。また、区としても事業者の持ち物であつたラックを無償で譲りいただけるということだったかと思えます。両者にとっていい形で一区切りさせられるということで、私、非常によかったなと思っております。

念のため一つ確認させていただきたいのですが、このラックは耐用年数的にまだまだしばらく使え

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

るという認識でよかったですか。

○交通対策課長 ラックの方は全然問題ございません。

○川村みこと委員 ありがとうございます。安心しました。

でも、竹ノ塚の特にラックナンバー1から71は料金体系が大きく変わっていると思います。大規模な工事をやっていたりすると、業者が替わったのかなとか思ったりして利用者の方も気付くと思うのですが、今回のようにラックなどが何も変わらない場合は、いつも止めている方が毎回料金の案内を見るかという、そうではないなと思っています。

これ現地での案内はどのような方法を考えていますでしょうか。

○交通対策課長 料金の方は、竹ノ塚については、放置対策といいますか、お買物の方が短時間で使っていただくような設定の料金体系でやっていきますので、その形に同じようにさせていただきたいと思います。

周知につきましては、川村委員おっしゃっていただいたとおりでと思いますので、しっかりこれが変わったということが分かるように周知できるようにしていきたいと思います。

○川村みこと委員 案内板の料金変えただけでは、なかなか気付かない方もいらっしゃると思います。しかも、竹ノ塚はラックが横長に並んでいて、案内板が遠い位置にあるかと思うので、是非表示の仕方は工夫いただきたいなと思っております。

続いて、デマンドタクシーの件ですけれども、ちょっと確認させていただきたいのですが、70歳以上の方とか妊娠中の方は500円割引になるかと思いますが、70歳以上の方はもちろん変わらないのですが、妊娠中の方など対象者から外れてしまう場合の対応はどのようになるのでしょうか。

○交通対策課長 まずは、半年間の実証実験という

ことで、その期間ということで対応させていただければと思っておりますけれども、そこはちょっと検討させていただきます。

○川村みこと委員 これ実証実験なので、今の段階では難しいと思いますが、例えば前回も私質問させていただきましたが、月8回までのところ現在確認するすべがないとか、妊娠中の方が出産後は多分対象外になるのでしょうか、そこについて今チェックするすべがないということがあるかと思います。

この実証実験していく中で、こういった公費を使って利便性が向上するのはいいなと思いますけれども、一方でほかの区民の方からも理解を得られるように、あまり緩過ぎて公費負担が大きくなってしまっては元も子もないと思いますので、是非そのところは実験の中でやっていただきたいと思っています。

もう一つ確認させていただきたいのが、同乗する場合ですけれども、もちろん登録している方は一緒に乗れば1台の料金になるというところで、これはいいなと思いますけれども、介助者は、乗降が困難な場合は一緒に乗って、この人は登録なくても介助者は乗れるということだと思います。

介助者の定義は、これ難しいなと思ったのですが、例えば病院に通院するときに使われる方が多いということで、例えばですけれども、旦那さんが単身赴任で住民票がここにないか、例えば妊娠中の方であれば、里帰りしないで最近はお父さんが手伝いにいらっしゃる方も多いと思います。そこで体調が悪いとかで通われる場合は、その方も一緒に病院まで付き添ってあげたりというものもあるかと思います。こんな場合は一緒に乗れるのでしょうかね。

○交通対策課長 そこは介助いただいているということで、運転手さんに言っていただいて乗っていただけたらと思います。

○都市建設部長 川村委員が懸念されているのは、

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

あなたは介助者じゃないから乗れませんとか、そういうトラブルを未然に防ぐということも含めてなのかなと思ったのですが、これは事業者のほうにもきちんとお伝えして、しゃくし定規でやるのではなくて、そこは柔軟に対応していくべきだと思っておりまして、いずれにしましても、性善説に立つか、性悪説に立つかになるのですけれども、基本的には利用していただきたい。その中で、区民の方節度ある使い方はされると思いますので、少し柔軟に対応していきたいと思っております。

○川村みこと委員 柔軟に対応いただいて一緒に乗れるのはいいなと思うところと、もう一つの観点からいくと、対象外になった場合について考えてみると、足タクの利用ガイドの例で、お子さんの例で、一緒に研究したいので都市農業公園に行ってみるかという場合も出されていたかと思います。この場合だと、絶対介助者にならないと思うのです。例えばおじいちゃん、おばあちゃんが一緒に行ってみたい、その人足立区に住んでいない、対象地域に住んでいないとなると、対象外になると思うのです。

その場合、もちろん一緒に乗れないと思うのですが、私、何が言いたいかというと、この場合その人だけ別の手段で行かなきゃいけないと思うのです。でも、1台の箱動いているわけですから、環境的にもいろいろな面でももったいないなと思ひまして、思い切って同乗者の料金を設定して、それをお支払いいただく。それでもやはり使わないよりはいいと思いますし、区の公費負担の部分が減るのではないかと私思ったのです。

別の手段で行ってもらうぐらいなら、その箱に乗ってもらって、ちょっと安めのこの500円でいいと思うのです。2,000円未満の場合1台につき500円だったところを、もう1人同乗者の方も500円で乗ってもらうというのもいいと思うのです。公費負担を減らせるのではない

かなと思ったのですが、その点についていかがでしょうか。

○都市建設部長 正直まだやっていないので、何とも申し上げられないところが多数あるのですが、確かにそういう御懸念もあろうかと思います。

多分公費の負担を減らすとなれば、今のケースで言えば、通常のタクシーを呼んでそのまま行ってくださいという話にかなり近い話になると思いますが、その部分は運用上でそういう御意見来ると思います。

先ほどいみじくも申し上げたとおり、トラブルにならないように、なおかつ利用がどのような傾向があるのかということ踏まえて、それプラス区の負担を増やさないような仕組みについても、併せて考えていきたいと思っています。

○川村みこと委員 これからだと思いますので、是非御検討いただきたいと思っています。私も楽しみにしております。これ要望させていただきます。よろしくお願いします。

○しづや竜一委員長 他に。

○鹿浜昭委員 すみません、先ほど言うのを忘れてしまったのですが、大竹委員からもあった迎車に対しての料金設定ですけれども、350円とか400円という話があったのですが、基本的にはそれを運賃と合算してその半額をとということですが、なかなか迎車料金まで払うという意識は一般の方というのは大変少ないのかなと。

例えば自分で呼ぶときは当然迎車料金払うけれども、このデマンド交通に対して、区がやっているにかかわらず、そういうシステムだという考えを持つ方が多いと思うのです。それに対して迎車料金まで含むということ、全部含まれるわけじゃないですか、電話で呼ぶわけですから。

皆さん迎車するその料金払うのが嫌だから、外に出てタクシー待つわけですね。システムとして電話で呼ぶわけですね、今回は。ですので、その迎車料金をもらうというのは、半額であっても

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

私ちょっといかなものかと思うのですが、いかがでしょうか。

○交通対策課長 今回実験としてやらせていただくのが、一般に走っているタクシーの運賃形態といえますか、その形の中で運用させていただくということでもございます。それから、実験ということなので、参加される方が皆さん不特定多数でなくて、登録されている方という前提でもありますので、そうした方々が呼んでいただいて、その場所から乗っていただくという形になりますので、それはなしでというわけにはいかない部分ではあります。

ただ、鹿浜委員おっしゃっている部分はよく分かりますので、今始まるものについては事業者さんと協定も交わすような状況で進めておりますので、改善される部分、懸案事項ということで把握させていただければと思っております。

○鹿浜昭委員 今日結論出してくれとは言わないけれども、これちょっといかなものかなと。普通であれば、私もよくタクシーは利用させてもらうけれども、やはりその迎車料金もったいないと思って、それで外でタクシー待ったり、今はGOとか、エスライドとかいろいろなものがあるから、そこでピンポイントで呼ばしてはもらうけれども、そういう費用を払うということの抵抗というのはすごい強いと思う。

ですので、是非迎車料金は区で負担させていただきますという、これは私の気持ちだけでも、そういう方向で、今、課長も検討していただけるという話だったので、是非よろしく願いしたい。要望させていただきます。

○市川おさと委員 今のやり取りだけでも、要するに迎車料金というのは、事業者に区は払うわけですよね。払うけれども、その利用者さんは500円か1,000円の中にその迎車料金も全部含んでいるから迎車料金は負担しないと。負担しないという言い方は分からないけれども、負担は見

えない形になっている、そういう形でいいですか。

○交通対策課長 例えば2,000円を超えない範囲では500円負担ですよね。2,000円を超える部分になったら1,000円負担いただくというふうになっていますけれども、2,000円を超えるというのはそこに500円が入っている状態、なので距離が変わってくるようになるのかなと思います。

○市川おさと委員 要するに、利用料金が2,000円未満と2,000円以上で切っただけだけれども、この利用料金というのは迎車料金も含んだお金になっていると、そういうことですね。分かった、以上です。

○しづや竜一委員長 他に。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○しづや竜一委員長 質疑なしと認めます。

○しづや竜一委員長 次、その他に入ります。
何かございますか。

○加地まさなお委員 前回の委員会でもお話しさせていただいたライドシェアの件ですけれども、再度これは交通地域サポート制度で、今回のデマンドタクシーもそうだと思いますけれども、緑ナンバーの乗用のタクシー型の運賃差額補助というのが今回のデマンドタクシーだと認識しているのですが、違いますか。

○都市建設部長 加地委員御指摘のとおりです。

○加地まさなお委員 本制度での対象は、黒実線の交通システムを想定として書いてあります。これ実証実験でやっているのだからこれは黒だと思うのですが、今回、この上の緑ナンバーのところの路線、定期のバス、ワゴン車、グリスロ、国が言っているいわゆるライドシェアというのが、タクシー業者さんが安全運行管理を行いながら、タクシー会社さんの車を使い、言い方が合っている

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

か分からないですが、パート的な方もできるというのが、いわゆるライドシェアというふうに行っていると認識しているのですが、合っていますか。

○都市建設部長 今の国交省から示している立て付けでは、加地委員おっしゃるとおりかと思います。

○加地まさなお委員 同時に、今、都内でこれを取り入れるタクシー会社さんが何社か出ているというニュースがあったのですが、足立区でも、タクシー会社さんの方に導入しますかというようなヒアリングはされていますでしょうか。

○交通対策課長 ヒアリング等はやっておりません。

○加地まさなお委員 是非足立区も、これ本来のライドシェアではないですね、実は。ですが、一応国の示したライドシェアという形なので、これは活用したほうがいいと思っています。タクシー会社さんたくさん足立区あるということなので、是非足立区でも早急に取り入れてもらいたいなと。これもタクシー会社さんの実験的になると思うので、是非教えていただきたいです。

私もそれ乗ってみたいと思うので、その辺をどうでしょうかね、今後。確認する予定はない。

○交通対策課長 たしか動きの中では、東京の場合は特別区と三鷹市と武蔵野市ですか、そのところで曜日と時間帯が決まってということで運行が始まると思います。そういう運行の車両を見掛けることになるかとは思いますが、特別区の中なので。

○加地まさなお委員 区として。

○都市建設部長 加地委員、何度か御質問、御発言いただいていると思います。いわゆるライドシェアが足立区の特性に合うかどうか。

今回、デマンドタクシーで事業者さんとのつながりもありますので、少し動向を見据えながら、どういう形がいいのか、入れるのか、入れないのか、やるのか、やらないのか含めて検証させていただければと思います。

○加地まさなお委員 すみません、もう1点だけ。

是非検討していただきたいと思います。

同じく白ナンバーの方の無償ボランティア輸送の方は黒実線になっていますが、この上の自家用車の方、これが本来の特区で全国的にやっている、これがライドシェア的なもので、足立区の将来を考えると、正に交通の問題、今、全て解決できるのはここしかないとは思っているのですが、ライドシェアをやっていく方向というのは、これはどういうふうに区は考えていますか。この実例は入っていますけれども。

○都市建設部長 さきの本会議でも同様の質問をいただいております。いわゆる民間事業者さんがどのような立て付けでこの自家用車で有償運送するのかということについては、なかなか区の方として実態を把握していないのと、そういった人材がいるかどうかということを含めてやっていかないといけないと思います。

いずれにしても、これも、もしかするとタクシーのデマンドと一緒に、既存の枠組みの中で地域でどういった移動手段をつくるかということに関わってくると思いますので、少し検証というか、検討させていただければと思います。

○しづや竜一委員長 加地委員、その他なので簡明をお願いします。

○加地まさなお委員 選択肢に入っているというふうに認識させていただいて大丈夫でしょうか。

○都市建設部長 地域交通計画策定の中で、議論の一つになろうかと思います。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

○山中ちえ子委員 はるかぜ10号について質問します。

12月に減便されて、いずれ廃止にするという計画、早くから地域住民への説明や意見聴取をやらなかった、何も聞いていないということを聞いていますけれども、その点ではどうですか。

○交通対策課長 予算特別委員会の中で、はたの委員から同じ御質問をいただいたところでござい

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

す。

うちの方でも、1月の段階で地元に対し御相談をさせていただいたのですが、広がりのお話はできなかったのでもっと反省しているところでございます。

また、先日また御相談もいただきました。ですので、先ほどちょっとお話しさせていただいたのですが、地元の町会長さんがお骨折りいただきましてお話しいただいておりますので、今後、具体的な話を伺いたいということで、やり取りをさせていただきたいと思っております。

○山中ちえ子委員 人ごとのように事業者が大変な状況になっているというときも、ほかの区は様々な赤字補填平成22年頃からやっているけれども、足立ではそういった姿勢に立たなかったということが今のこの状況を招いているということもありますけれども、日立交通とあります。はるかぜ3号の廃止のときには、国際興業バスに存続がどうかとか、その後どういう形ならできるかとか、いろいろ交渉したと思います。

今回、はるかぜ10号については、日立交通とこういう存続についての協議をしていたのでしょうか。

○交通対策課長 ヒアリング等もさせていただいております。その中で一番の問題は、運転手さんの不足、それから2024年問題の対応という中で、継続が困難であるというお話でございました。

○山中ちえ子委員 赤字補填など区が財政支出をした場合、存続可能なのかどうかといったところを確認したということですか。

○交通対策課長 山中委員おっしゃるとおりでございます。

○山中ちえ子委員 こういった確認も急いでやるべきでしたし、ほかの区では協働事業ということも早くからしっかりと、どういう路線にするかとかそういったところまで深く話し合って存続させていたり、いろいろな学識を取り入れてしっかり議

論したりしています。

それで、地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針が2023年の8月に改正しています。この中の方針で言えば、行政が先頭に立って公共交通事業者と住民と利用者、学識経験者をはじめとする地域の関係者が知恵を出し合って合意の下で、こういう状況にあるから、大変な状況にあるから、廃止や減便路線の状況があるから、知恵を出し合って路線のダイヤ、運賃の見直しとか技術の活用により地域公共交通の改善を図るとか、こういった公共交通のみでは移動ニーズに対応し切れない場合には商業施設や福祉輸送など地域の輸送資源を総動員し、地域における移動需要の創出を図るというふうになっています。

こういったことができていないというのは、本当に問題だなと思うのですが、今日の午後やられるという話ですが、こういった形でやろうとしていますか。

○交通対策課長 今日につきましては、まずはお話をいただいておりますので、御相談をさせていただくという形でございます。出向いてお話をいただく方と、それから関心を持っていらっしゃる方にも同席いただけるという話では聞いております。

○山中ちえ子委員 是非参加を広く、対象者を広げてやっていただきたい、人数を絞って制限するのではなくて。そういったやり方で、やっとなんか立場になったということではいいのですけれども、そのやり方、意見をしっかりと聞いて次に生かしていく、次の地域交通について生かしていくということでよろしいですか。

○交通対策課長 まず、10号の後のことについては検討させていただきたいと思っておりますので、そこではしっかりとやらせていただきたいと思います。

○しづや竜一委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○しぶや竜一委員長 なしと認めます。

以上で、総合交通対策調査特別委員会を閉会と
いたします。

午後零時13分開会

速 報 版